

『カルチャー・オブ・ジャズ』
～理論的、美的、そして哲学的な
黒人音楽文化の礎
by Le-Ogotomeli Wadada Selassie

●パート1 (ブラック)

ニュー・ヌビア・デルタ・ブルース・ソニック
ス (新ヌビア人のデルタ・ブルースの響き)

1 セレモニー・アンド・リーチュアル (儀式と
祭典)

デルタのブルース地帯は
肥沃な黒土に富んだ土地／そして
収穫の日には
祭典と儀式の儀での／グリオの掛け合い
(diari=diary? dialogue?) が、
共同体の面前で
最初の実りを祝う

アメンタ (地下世界) から、やって来て
太陽は／まるで満潮の突端の大きなイナジーで激
しくのたうつ全能の波のように昇り
そして／
予言の儀と／儀式で／その重たい顔をふたたび沈
ませる
月の自然のイナジーと／太陽のリズムは
ケム＝ヌビア＝ガーナの／祖先の
子どもたちを目覚めさせた

古代文明人の日々をみれば、
早朝の／何物をも突き通す輝きの中に立って／彼
らは、
尽きることなく放射される太陽光線から／自然の
イナジーをかき集めてる
絢爛たる赤橙の色面から発せられる、その輝きは
恋する者と、ブルースが嘆く大地にしみ渡り

生のままの紫の炎は
汚れない水に／祭られる

2 グリोटニック・カントス：芸術とジャズの変貌の歌

デルタは、平坦で、黒い、黄金の土地
深く、淵の先端までにそびえる土地
西アフリカからやってきた／苦しむ者と恋する者
は、
南部の揺りかごで正統を成し、
デルタ・ブルースとジャズの伝統の中、
歴史の神秘の炎／それに／靈感をもたらす精神に
火を着ける

グリオの民は自分の表現の中で／ジャズの精神
文化をあらわにし／そして
いにしへのダンスに形作られた男と女の真の手引
きたる／
ポート・ネトーの深遠で知に満ちた芸術の中で、
史詩の記憶は、新たにつながった
ふたたび

いたるところで恋する者は
肉体の (maat) 修練に励んでる／
真実の、正しい、そして当然の自然社会の法則に
それは自然の中で構成され重んじられる／根本的
な宇宙の統一手段／
人生の十字路で悟られたもの
そこでは天の知恵と／カバルの知識が、Irtator の
調和の王土を形作る
眼に見よ！

カントスが吟じることは、
ヘカウの言葉、サウンド、パワー・イナジーを通
して声となり、

そして鋭敏なる教義は靈感の普遍的なドラマに閉じこめられて／
ひとつとなって生命力を得、
苦しむ者は／十徳と肉体（maat）の原理に目覚め／
そして、黒点の内て解放された
ヘルの眼で捉えられた／偉大な種の中の種
（protonality?）
恋する者は、
楽園のブルースを歌う
眼に見よ！

そんな多くが、ダンスの中には込められて、
またそのリディム（リズム）のパターンと進行ゆえに、
根源のイナジーを充電された音楽の形は——
その意匠の中に、装飾の意味とリディムの構成パターンを収めてる

内深くルジャの遺産を授けられ、
女と男は卑しい身を克服し／そして
一挙に、オウサー＝オウセットという／高い自我を確立した
自己と自然、そして神の知識と知恵を完璧に具えたオウサリアンは、
この世で／絶対的な精神の存在と化す

3 ザ・ブルース・Diari：サフィの黒い瞳のエチオピア人

ブルースの太陽は、
丸く、均等に広がった橙／黄金色の炎の円盤
高く昇る意識は、
もじゃもじゃ頭で／
平坦な顔／広がった鼻
厚い唇／黒い瞳の／エチオピア人に、

隅々まで魂を吹き込んだ
儀式的な厳粛さの中で／王なる太陽は
デルタランドから深く立ち昇り／不朽の炎の魂を
称える歌に靈感を吹き込んだ
21の目映い弦からなる／グリオの輝かしいコラの
音楽から持ち上がった／ウラテウスの音楽エナジーは、
クンダラとウラエウスが、天と現世の住まいで踊る時に再生されるもの／そして高みに昇った女と男の中の勝利の喜びの歌

● パート2（ブラウン）：ザ・ナチュラル・ミスティックス・ライディング

4 エリントンの Diari（吟唱詩人）

道端のドラマで
寄り合いが喚起して、
沈黙のダンスに取って代わり
その場で調和されたメロディアスな夜明けの追悼

すぐさま
沈黙の王は、見事な漆黒の馬にまたがって、
史詩の記憶を追って静かに走り去った
永遠の知恵の女王——
内なるヴィジョンの中心にあるクールな流れ
エリントンは、テンポに乗った崇高な追憶で／掲げられた寄り合いを解放した
こう言うて：

“至高の存在だけが／
比類ない、光を与えるハーモニーの／
かくも美しい／釣り合いのとれた瞬間を見せることができる
壮厳なメロディは／純粹で、威厳ある——Neter
の声、
そして／全能の者のみにふさわしい
ごらん

女と男は／
昼は太陽の、夜は月のイナジーで清められる

内部にはそんなジャズのリズムが流れてるから、
私とあなたは、自身を知ることができる
なぜなら、まさにメナソが言ったように、
その昔私達が、そもそもの祖国、ヌビアの太陽の
峡谷にいた頃は、
おのれ自身が精神のルジャ、ヘルの子だということ
が分かっていたから／そしてジャズ・ミュージックは
大地の有機の自然に／精神の殻として生じた、
苦しむ者の視点から悟られた、革命的な変貌の
象徴”

エリントンのヴォイスの後に、
ふたたび寄り合いは沈黙に被われて
彼らは音もなく／露に覆われた野を横切り帰り

落ち着いた足取りで
車にふたたび足を踏み入れて、
ハイウェイ61を南部に向かった

車中で
5人の女と7人の男は／おのれが深い平和に包ま
れていることに気づいた
全能の者の前で／
世俗世界とその変幻がバランスをとったことで到
達した平和に

5 ジャズの王族と普遍の光（創造理論）

(1)
ルイの大口は／沈黙の意志を破って、
こう歌った：
“恋人たちよ、

その昔
日が昇る中
先達をチェックして――

そうすると私はそこに返ったような気がして、
内なる気分を騒がせた／
キング・オリヴァーが／ジャズ・ミュージック
の道を私に見せた時と同じ様に

ポッパ・ジョーは私を Irator の宇宙の内部に
投げ、そして／
彼の偉大な愛を得て私は／ルジャの風景を見る
ことができたんだ

いま
その（魂のヴィジョンの）後／
私がホーンのヴォイスを通して語ることは、す
べて同様に、
ヌーで／初めて明示された瞬間のこと／

Kether が実体のない領域から／意識を呼び覚
まし、
Iraton のPtah を生み出した時のこと／
これは、ひとつの対象を音楽の創造物として定
義する／創造の同じ根本の法則で、その性質を
表現する上で、音の長短が変化すること”

黙想が敷かれ、
車の外には／エキゾチックな風景が流れていっ
た
車道に沿った木々には
緑灰色と赤茶色の苔がぶら下がり：
信ずべきジャズのリズムでスウィングしてた
(2)
ビリーの厳かな金の歌声は、

自由と精神文化の／美の概念を吟唱した

“真実とは、サッチ——

新しい世代それぞれの

黒人世界の創造的なアーティストのこと／そして

彼らが本物で、真実を共にする者なら、

内なる解放の／漆黒の真珠の触媒

“偉大な解放計画は、

人の内なる魂のヴィジョンの中で始まり／そして

(the iration) 本能で実現された時／

そのアーティストの交流する生命力を形成し、

形作る

ヌーの御前にあり、またその中心に位置する、

祭を司るアーティストたちは、

瞬時に音楽の触媒要素をひとつに編み上げる：

別たれた水平をいくメロディ部分／そして

その垂直をいくハーモニーの軌道を——

そして純粋な宇宙の精神との交渉を通して、

アーティストは、出たところ勝負のリズム構成を

作動させて、

即興的で複合的な音楽の対象を創造するのです

／それは、自然体系と構造のフォームに従って、

一体となり生命を得たもの／だから、前に言った

ように、

ジャズの音楽の対象は現在に委ねられ、

その結果が、広大な道のりの／リアル・タイム

の音楽の旅路”

車の中では／沈黙が壁を跳ね飛ばし、

それでも何も音がしなかったので

ビリー・ザ・クイーン・オブ・ホリデイは／こう

続けた：

“ハトシェブスト（エジプト18王朝の女王）は

言いました

エジプト18王朝に立ち返るのが一番だと／

「ヌーの奥深く、

不動の Kether は／動き、それも直ちに動き、

the Iration 本能？がほとぼしりを上げた／全

能の河のように」

ジャズ・ミュージックは生の第一の法則に通じ

る／黙想的な現実の／

深遠な内なる軌範／

それは、生まれながらの意識からなる／その人

自身の金の真理、

恋する者の真理、信ずべき言葉と比類なき洞察

の伝統

ヘルの眼を通して／苦しむ者のために生ずる本

物の知恵

そしてこの経路ゆえに、

恋する者はすべて／無条件で真実を知ることが

できる”

(3)

静けさの熟した雰囲気に乗って、

マー・レイニー、“ザ・クイーン・マザー”はこ

う言った：

“そう、真実よ

黒い人々には、神 Neter のことが分かってた

まずイナジーが最初であり——（ボブ・）マー

リーが言ったように：

「そして毎日バケツは井戸に運ばれ、いつか底

が漏れる——」

すると漆黒の人々はふたたび悟りを開き、

オーサリアンのマスター、ジョージ・G. M.

ジェームズと／

ラストファリアン、魂の反逆者、自然の神秘たる

ハイレ・セラシェの教えが見い出した／あが

ないの歌を歌う

恋する者と苦しむ者は／ジャズを内にして、

真実を精神文化に向かう条件にしたの

そして今、光の子どもたちは／精神の奴隷の瓶

を打ち砕き、そして神にあがなわれる”

(4)

ザ・ブルース・ファータは

目の前で沈黙を引き裂いて、こう言った：

“J. ロールが、ニューオーリンズの人々に/
あの金のクリスタル・スマイルで祝福を与えて
くれればいいのだけど
私は彼に直接会ったことはなく/この王様をカ
メラの目を通して見ただけだけど、
彼の顔は/フォト・イメージの頁に収められて
いるように/
深遠な炎に包まれてる
ジェリーの容貌は、
私の思いを神秘の領域へと向かわせる
私らが〈ザ・テレストリアル・グレイナリー・
オブ・ピュア・アース (汚れない大地の地の殻)〉
を指揮して、一緒に下り、
オゴトミーリの西アフリカに落ち着いた時/
私らは第三世界を持ち込んで/そして、すべて
のものを分類し、
自分たちの仕事の形式をひとつに確認した。
1912年には、「メンフィス・ブルース」が道を
切り開いた——
それに、
モートンの「ジェリー・ロール・ブルース」が
出版されたのは1915年だったけど/彼はそれを
1905年に作曲してた
そう、主よ！
ジェリー・ロールはジャズの最初の王なるパー
フォーマー/作曲家/即興演奏家/そして理論
家だった
彼は
ジャズを
偉大な音楽にした”

サッシィはこう言った：

“古代の歌声で/そもその始めから最も高度
に形づくられたジャズは——

漆黒の炎を、全能の変化の内部に注入した

歌

ドラマ仕立ての歌の伝統は/アフリカの社会体
系から直接生じたもので/またリズムに支配さ
れた活動のために、
この音楽の鼓動は、苦しむ者の憤りから/抑圧
を解き放つ
恋する者よ、いいかい
この歌は完全な心象舞台で (psycostasia?) /
あっという間に完結した概念を与え/
緻密で、純粹な、
蒸留された本物の言葉は/
イメージの暗喩と導入ラインのリズムを駆使し
て、
生きる者の内に/心理的な変化を創造するた
めに伝えられる”

乗りの力は、ハーモニーを奏でるシスターに乗り
移り/
彼らは、車中を/磁力を放つ輝く光彩で溢れさせ
ることで/
その一体となった愛情、誇り、それに深い尊厳を
表現した

6 ザ・パール・ブルー・ライダーズ

ルイ・A、
リル・ハーディング/サン・ハウス/サラ・V、
/W. C. ハンディ、エリントン
リトル・ジャズ/M. ルー・ウィリアムス/フ
レッチャー・H.、マ・レイニー/ベイビー・ドッ
ズ
ビリー・H.

ブルースの父は、縦に長い夢の車を持っていた
4シート、6ドア、太陽熱搭載の月のライダー
その色は／クールなパール・ブルー・クリスタル
車高は地面すれすれ
オーガストの部隊は
創造的なアーティストの集会のために／
ニュー・オーリンズ（ヌビア＝エチオピア新南部
共和国の首都）に向かう途中だった
車の中で、魂のみにつき動かされて／
インディゴの交差点で南部の太陽を横切りながら

——
彼らの気分は優雅で、調和して／そして驚くほど
穏やかだった
マスター・ミュージシャン陣は、
厳かに色彩に彩られたデルタの日没の瞬間に／
ニュー・オーリンズに行き着いた
光は夜を後方に従えて、ゆっくりと進み、
デルタをインディゴ・ゴールド／
赤／
炎に／転じた
白熱の
祭壇に

●パート3（ページュ）

ザ・ニュー・サザン・リパブリック・オブ・ヌビ
ア・エチオピア
7 ニュー・オーリンズ
あの荒々しい人種戦争の後
地の民は／平和な時代の70年目にあり
そして世界は今では見違えた
彼らは、闘いが残した地上の混乱を清め、
男と女は結束を見い出して／互いの謎を解消した
今ではすべての社会は、魂の科学／それに平和と
愛の芸術に励んでる——
到るところで／

人は皆、自然なやり方で生きることへの深い尊厳
を分かち合う
そしてそのために——
人々は心穏やかで／その世界は安定してる
ほとんどの家族は食料を自給自足して／家の中で
暮らしをたてている
生態の力はバランスを保ち、
綺麗な川、湖／せせらぎ／自然公園に溢れ
野性動物は豊潤で／多彩

きれいなエネルギー源ゆえに／
本物の空気、水、それに
澄んだ呼吸／大衆の喜びがある

ヌビアの教育制度は／開かれた構造のフォーラム
で
そこでは科学者、芸術家、治療師、霊媒、専門技
術者／つまりは学問のキラ星が、教育の園で／
オープン・セッションと講演を開く
教育は生涯／市民に開かれている
8 チャーリー・バディ・ボールデン：オーサリ
アンにして〈カルチャー・オブ・ジャズ〉の最初
のジャズ・マスター

7月23日、21世紀まで72年

平和の時代
地上では満月の光り輝く白光が／デルタのすみず
みまでを満たし、
そして夜の早いうちには／人々は偉大な湖、エタ
シャのそばに集ったものだった
夜の空気は——熱を帯びてゆらめき、
恋する者は皆、深く黙想にふけた雰囲気で／
文化集会の／驚異の祝福の瞬間の到来を待ってい
る
儀式と化した空間は瞬時にして／自然神秘的の夜に
変貌し／

そしてそれは
トランス現象の軌範——
一体化の触媒

エタシャ湖はその領土で／ヘルの眼のように形を
転じ：

その縁を取り囲んで、恋する者は自然の傾斜面に
腰をおろし

湖の縁を囲んで扇状に広がる

圏外の眼のように／

そしてこのパール・ブルーの湖が、その教徒の中
心を成しているかのように

オーガストの時代に、偉大な主人と長老議会は、
この巨大な湖の上で結晶した
するとたちまち、月光が最も神秘的なまでにかす
み、

すべての声は詩歌の中で高まった

その小神秘状態は、太古の原型のようで／

ダー・エル・メディネットの宮殿で現わされた／
魂を押し量る、王の心象舞台のヴィジョンに類似
していた

湖から浮かび上がった主は、“祖先の尊い椅子”
に腰をおろし／

長老議会は湖の上で彼の左右を形どった

祖先たちに聖水を注いだ後、

グリオの民は漆黒の炎を称えて歌い、この小神秘
状態を満たし／

使者を受け入れる準備を整えた

ボウルデンは“祖先の椅子”から立ち上がり／
Neter の名を唱え、

ホラ・フジアからの詩節を暗誦し／そして口火を
切った

Neter

Nebertcher
Khepera
Ptah
Ra
Leza
Nyambe
Nyame
Mulungu
Ngewo
Mawa
Amma
Olorun
Chakwu

聖ボウルデンが／東西の方角に手を差し出すと、
あっという間に湖から／
ミュージシャン、ダンサー、シンガーの複合アン
サンプルが浮かび上がって／西アフリカの民族の
名を唱えはじめた

Ashante
Mandingo
Fon
Yoruba
Dahoman
Hausa
Bozo
Bambara
Dogon
Igho
Fanti
Baoule
Wolof
Fulani

アーティストの詠唱と音楽の演奏の後、

この儀式の空間は／高い知の輝く王土と化した
儀式の湖を取り囲んで座っていた恋する者たち
は、
光の柱に腰かけているようにみえた

ボウルデンは、漆黒の威厳で語る：

“ジャズの音楽的瞬間は、いまに生じ、
即座に音楽概念をなし／ひとつの流れの中であ
らわになり、
音楽の対象を創造する
創造的なジャズ・アンサンブルの演じる行為
は、
民主主義の原理に通じ／
それはジャズ・アンサンブルの自由な魂の概念
の中、独自に彩られる
ジャズは解放の音楽／
女と男の、外と内なる魂のヴィジョンをひとつ
にする力
黒人の音楽と踊りの文化の美意識の新たな世界
は、
調和、尊厳、純粋たること、それに力強い合体
主義の内省哲学で、
そこではすべての原理と、言葉、活動は、
エチオピアの感性からなる創造的な言葉に象ら
れ／団結を生む力となる

ポリリズム

ポリソニック

ポリセントリズム（多中心主義）

ポリフォーム（複合形式）

ブルース・ソニック

カーヴィリニア（曲線）

ディメンショナリティー（立体性）

エピック・メモリー（史詩の記憶）

レピティション（反復）

ホリズム（合体論）

エボニクス（黒人たること）

そこには／

古代から現代文明に到る黒人文化の偉大な美を
形づくる／

歴史と口承、そして心理的な要素の中で見い出
された文化のエナジーがある”

ヴォイスの後に

キング・チャールズ・バディ・ボウルデン 1 世
は、

恋する者と／それに偉大なる祖先の前でタップ・
ダンスをした

彼は／言葉とサウンド、力、そして靈感でその場
を締めくくった

すると、集められた会衆は、

予言の炎、肉体／そして無類の洞察の知に富んだ
古代の言葉からなる／

エチオピアの歌劇集成を

踊り歌った——

真実の／

神秘の瞬間へと／

深く分け入って

訳：黒須千秋